

入学にあたって

なまめかしいこと

歯学部1年 塚田大幹



新潟大学歯学部の一員となってから、もう大分日がたちました。ちょっと長目に受験生を続けた僕にとっては、あの灰色でいつも重しをのせていた様な日々からようやく脱出できたか

という安らかな時間でありました。ただ先輩曰く、1年生は天国だということでしたが、それなりにいそがしかった気がします。新しい環境（一人暮らしをはじめた人たちはそれはそれは劇的な変化だったのではないですか）に慣れるのにもエネルギーを必要としました。

さて、一般教養を学べるのはこの一年間しかありません。吉田兼好は著書徒然草の中で 人間としてこの世に生まれた以上、かくありたいと願うことは沢山あると思うが、いちばん望ましいことはなまめかしくあることである と述べています。「なまめかしい」とは上品がにじみ出て美しく感じられることであり、「奥ゆかしさ」「上品さ」を身に付けることでもあります。さらに兼好は、人の価値は生まれつきの容貌や風采などではなく、賢くなりたいという向上心を持つことで決まるのであり、その気持ちで教養を身に付けることが大切であると教えています。そして本格的に学問に励み、世間の常識をわきまえて行動することが、まことにすばらしいものだと言っているのです。

この一年間は、その教養を身につけるきっかけをつかむための時間なのだと思います。特に将来歯科医師になれば、人を相手に仕事をする人が多いわけで、ますます大切でしょう。幸いにも多くの先生方、先輩達、そしていろんな道を通ってこの場にいる同級生がいます。周りの人達からた

くさんのものを吸収し、また自分でもいろいろなことに挑戦し、経験していくことで人間的に大きく成長していけたらと思っています。

「大学院入学にあたって」

歯科保存学第二講座 植木 薫



今年の春に新潟大学歯学部を卒業し、4月から歯科保存学第二講座に大学院生として御世話になっております。こちらで歯周病学の免疫学的アプローチといいましようかそちらの方向の研究をさせていただくことになりました。

入ってすぐの頃から色々なことを教えて頂き、実験のお手伝いをさせてもらっています。おかげで大学で暇にしているということはほとんどありませんでした。大学生の頃と生活環境は何ら変化していませんが、あの時ほど気ままな暮らしではなくなったからでしょうか。知らず知らずのうちに肌が荒れてびっくりです。

入ってすぐの頃から色々なことを教えて頂き、実験のお手伝いをさせてもらっています。おかげで大学で暇にしているということはほとんどありませんでした。大学生の頃と生活環境は何ら変化していませんが、あの時ほど気ままな暮らしではなくなったからでしょうか。知らず知らずのうちに肌が荒れてびっくりです。

あれから4ヶ月経過しました。いまだに歯周病学、免疫学の世界に足の指だけが入った右も左も分からない状態です、共通言語さえも理解していません。自分の選んだ道が果たして自分に向いているのかどうか今はまだ分かりません。でも先輩方の実験をお手伝いをして様々な実験手技を学んだり、まだほんの少しですが論文を読んだり、諸先輩方の熱心な御指導のおかげでほんの少しですが知識も増えました（きっと）。周囲の志の高い方々のお話を聞き、一生懸命に仕事されている様子を見ているうちにとても興味深い世界であることが感じられます。誰がどんな仕事をしているのか、同じような研究をしている人たちに興味を持つようになりまして。そう簡単に行くはずないでしょうが自分もここで何か一つくらい形に残した

と思います。

このような環境にこれから4年間大学院生として身を置くことができること、周囲のみなさんへの感謝の気持ちをいつも忘れないように。せっかくの機会を自分の怠慢で台無しにしてしまうことのないように頑張っていきたいです。歯科医師として第2保存科の一員としての自覚を持ち、そしてどんなときも心身共に健康でいられるよう努めていきたいと思っています。

入学にあたって

歯学部1年 矢野 祐樹



僕が初めて歯医者になりたいと思ったのは小学校四年生のときでした。当時、父の仕事の都合でカナダに住んでいた僕は学校の課外授業で“サイエンスセンター”に行きました。この“サイエンスセンター”とは読んだ字のごとく、日本で例えるならば科学館なのですが、僕が行ったとき、たまたま“歯医者体験してみよう”なるコーナーがありました。そのコーナーで虫歯のある模型の歯につめものをしてみたところとてもおもしろくて歯医者になりたいなと思いました。しかし、小学校六年生に日本に帰ってきて、中学生のときには部活動に没頭し、高校に進学して、高校三年生になりいざ進路を考えたときにはどの学部にも魅力を感じませんでした。そんな時期に、小学校四年生のときの体験を思い出し、歯学部に入りたいと思いました。そして、一年間の浪人生活を終え、何とか新潟大学歯学部合格しました。

合格した直後は、ただうれしただけだったので、いざ冷静に考えると、不安なことが沢山ありました。例えば、ちゃんと勉強についていけるのかという不安や、本当に一人暮らしができるのかどうかという不安です。しかし、ほとんどの不安は胎内合宿に行ったことで消えました。唯一今だに不安なのは、勉強についていけるかどうかです。というのも今は一年生なので教養科目しかなく専門的な科目を学習していないからです。部活

の先輩の話では、二年生以降の勉強が大変になるそうなのでそれを体験するまではこの不安は消えそうもありません。しかし、こんな不安を持ちつつ早く二年生になって専門的なことを学びたいです。

今は部活、学校ともにごく充実していて最高の学生生活をおくらせていただいています。

六年間の教育課程を無事終了し歯医者になれる日を今から楽しみにしつつこれからの学生生活をおくっていきたいです。

入学にあたって

技工士学校1年 長谷川 健二



これを書いている4ヶ月と数週間前に技工士学校へ入学したのですが、その頃は新しく始まるであろう学校生活への期待や不安、とりわけ実習への不安が数ある不安要素の中でも大きく感じていました。

程なく授業も始まって忙しくなり、最初の実習課題が提出期限を過ぎていつまでたっても完成しない状況になると、ただ焦ってしまい、おかげで不安など忘れ、ただ目の前にだけ意識を集中させることができたので、2番目3番目の実習と、予定からだいぶ遅れてずれ込んでいた実習もなんとか修復することができたのですが、いままでこんなにもせかさされたり、何時間も集中して一つのことにとりくむことがなかった。と言うよりそういうことを避けてきたので、これまでのとは比較にならないほど忙しいですが、言い換えれば時間を持って余すことが無く、学校生活全般において大変充実していると思います。

入学してからまだごく短い期間しか経っていませんし、それなりに授業も進み、学校にも慣れたとはいえ、まだまだ先が見えない感じがしますが、その辺は先になってみないとわからないので、今は自分のすべきこと、自分のできることを前向きに努力したいと思います。そして、いつかふりかえった時に後悔しないことを現段階での目標にして、がんばっていきたいと思います。